

## 令和 2 年度第 2 回長久手市環境審議会 意見概要と素案への反映

箇所	意見内容	素案への反映
全体	「シティプロモーション」「シビックプライド」などの言葉には解説が必要	・注釈を記載または巻末や資料集に用語索引集を掲載予定。
	第 5 章の B と C が第 4 章と逆になっている。	・修正済み
第 1～2 章	「第 4 次計画策定に向けた課題」は、めざす環境像があった上での課題であるべき。	・目指す環境像と現状や課題との関係について図示をした。第 2 章の章校正や書きぶりを修正した。
	めざす環境像は第 1 章に書くべきではないか。	
第 3 章	「温室効果ガスの排出をゼロにする」「最終処分量する廃棄物がゼロ」とあるが、できそうもないことを掲げるのはどうか。現実的な目標にすべき。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現実的な目標にすべきという意見については、他委員から意見のあるとおり、ゼロはあくまで 30 年後の方向性である。 →予定どおりゼロとする。</li> </ul> <p>【参考】「2050 ゼロ」は全国の市町村が表明を始めており、既に国内人口の過半数相当の市町村が表明している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・温室効果ガスは吸収や循環も勘案した「実質排出ゼロ」として考える。</li> </ul>
	温室効果ガスは国でも 80%削減と言っている。	
	30 年後の「ゼロ」を考えながら、10 年間で何をするのかを書くべき。	
	温室効果ガスの排出ゼロは、緑による吸収も含めたプラスマイナスゼロでよいと思う。長久手の緑でどの程度の CO2 が吸収されるかを算定できないか。緑に CO2 吸収の役割も位置付けられれば、自然の保全費用に予算を投入する根拠にもできる。	
第 5 章 (脱炭素)	「アプリ参加者数 10,000 人」は多いのか、少ないのか評価が難しい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみ出しアプリのインストール数を参考に第 5 章に記載した (約 7000 件)。</li> <li>・スマホアプリ以外での対応 (紙媒体) も記載した。</li> <li>・第 5 章に記載した。</li> </ul>
	スマホを持っていない人、高齢者や幼児も考えると、アプリ参加 10,000 人は難しいのではないか。	
	「見える化」について、何を何のために見える化するか等、中身を具体的に記載すべき。	
第 5 章 (循環型)	循環型の指標は、市民の取組の目安になるような市民目線の目標があるとよい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近年特に増加している事業系ごみ (生ごみ) にスポットを当てたいので、重点施策は事業系食品ロス対策のままとした。</li> <li>・アプリのインストール数を市民目線の指標と考える。 →5 R の効果を見える化して「人づくり」をする。</li> <li>・測定は比較的容易。事業系一般廃棄物業者を通じて呼びかける等手段はある。</li> <li>・単位施策と重点施策、指標との関連性の説明を 4 章、5 章で記載した。</li> </ul>
	事業系廃棄物排出量はどのように測定するのか、事業所に対して削減をどのように呼び掛けるのか。	
	(裏面へ続く) 「ごみを出さない・作らない」の内容と事業系廃棄物削減、食品ロス等との関係性を丁寧に説明する必要がある。	

箇所	意見内容	素案への反映
(続き) 第5章 (循環型)	プラスチックごみを資源として回収するという動きが出てきているので、こうなると廃棄物の指標のあり方も変わるのではないかと。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨機応変に見直す体制を用意しておく。</li> </ul>
	最終処分をゼロにするというのであれば、そのためのストーリーを記載する必要がある。ガス化溶融炉の導入などが必要になるが、CO <sub>2</sub> 排出などの課題もある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第4章にストーリーを記載した。2050年に全ての人が高い意識を持った状態とするため、2030年までは意味・効果のある見える化を徹底し、人づくり地域づくりの10年としたい。</li> </ul>
	ゼロにするという目標と重点施策とのつながりがわからない。目標達成のためになぜこの重点施策なのかを説明する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第5章において重点施策の意義を記載した。</li> </ul>
第5章 (自然共生)	「生物多様性保全活動の団体数」の5→6団体は少し寂しい目標設定。団体とは何かの定義が必要。本来的にどのような団体がいくつ必要なのかを明らかにすることが必要。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指標値を再検討した。市民団体に限らず、大学や企業も団体数に含めることとした。</li> <li>・C-1に種の状況に関する指標を追加した。</li> </ul>
	香流川をきれいにする会でもオオキンケイギクの駆除をやるので団体に数えてもよい。団体は固定的ではなく緩やかに捉えるべき。	
	日東工業でもオオキンケイギクの駆除活動をしており、これも団体としてもよいのでは。	
	C-2、C-3に指標がないが、社内で議論したり活動しようとする場合、指標があるとやりやすい。ギフチョウの生息状況など生き物に関する指標があるとよい。	
	杵ヶ池公園の池など、現在ある公園の保全や環境整備の話があってもよいのでは。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・里山の基本計画を参照して記載した。</li> </ul>
	耕作放棄地、休耕田、竹林等を減らすということも、重点施策や指標にできるのでは。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第5章に指標を追加した。</li> </ul>
第5章 (安心安全)	D.安全安心に重点施策がないが、市民にとっては気になる分野であるので、重点施策や指標があった方がよい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5章重点施策を追加した。</li> <li>・不法投棄等の通報件数の指標を追加した。</li> <li>・気候変動への適応に関する指標を追加した。</li> </ul>
	美化活動の参加人数、団体数などは指標になるのではないかと。	
	環境基本計画は長久手市全体の計画であり、環境課以外の施策や指標も記載すべき	
第5章 全体	個人への啓発や参加促進も大事だが、学区やまちづくり協議会単位での意識啓発や活動の促進も重視すべき。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境に関する市民協働のイメージ(個人+地域)を6章に記載した。</li> </ul>
	2050年の目標に対して、なぜこの重点施策、成果指標が出てきたのかわからない。論理的につなげて説明すべき。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第5章プロジェクト説明欄に、設定意義等を記載した。</li> </ul>